

## ヒューマン・エラーの研究、永遠に！

立教大学名誉教授 正田 亘

**Studies of human error, forever!**

Wataru Masada (Professor Emeritus, Rikkyo University)

21 年前、第 64 回日本応用心理学会大会（駒沢大学）参加の帰途、山手線車中で、つり革につかまりながら、芳賀さんと会話をした。話の内容は、筆者の立大定年とその先の就職のことであった。芳賀さんが、“是非、先生の後任に”と要望された。新任の教員候補者選定会議には、“辞める人は入れない”と応答した。

1998 年 4 月、芳賀さんが筆者の後継者に就任された時は嬉しかった。これで、「安全心理学」の研究が立教大学で続けられることを確信した。筆者の研究分野は産業・組織心理学の中でも、主に安全の領域であったからである。

芳賀さんの主な研究テーマは、ヒューマン・エラー、不安全行動、交通事故・労働災害の防止等である。

いまでこそ、安心・安全、ヒューマン・エラーの事柄は社会的関心事となり、脚光を浴びているが、50 年頃前は、これらの問題が心理学の領域で取り上げられることは、ほとんど無かった。

上記事象の解明に先鞭をつけられたのは、狩野広之先生、恩師・豊原恒男先生であった。両先生とも沢山の本を著されているが、代表的なものを 1 冊あげれば、狩野『不注意とミスのはなし』（労働科学研究所、1972 年）豊原『心理的にみた安全管理』（日本法令、1974 年）がある。筆者も安全関係の本を 9 冊上梓しているが、同じように 1 冊あげさせて頂ければ、『安全心理学』（恒星社厚生閣、1985 年）がある。

芳賀さんも数多くの単著、共著を著されているが、安全関係にしほっても、『事故がなくならない理由』『失敗の心理学』『失敗のメカニズム』等沢山ある。特に近年上梓された『あなたの「わすれもの」これで防げます』（NHK 出版、2017 年）は、ご自分の体験を交えながら、判りやすく日常生活におけるミス、エラーを防ぐ方法を解説され、大好評であった。こうした著書以外に、安全関係の学術論文、国内・国外の学会で発表された研究は枚挙にいとまがない。

カナダのトロント大学に留学された芳賀さんは、語学の達人であり、海外の研究者との交流も盛んで、翻訳書も多い。さらにまた、彼は多くの学会の常任理事、理事、評議員、官公庁や日本航空、JR 西日本の委員を務められ、アドバイザーとしても大活躍されており、斯界の第 1 人者である。

立教大学退職後も、多くの分野で活躍されると思うが、是非、今後ともヒューマン・エラー、不安全行動、交通事故・労働災害等の領域で日本の研究を牽引して頂きたい。

芳賀さんのこれまでのご研究と社会・教育活動に敬意を表し、末長い発展を祈念する。